

2016年(平成28年)5月23日

水源守り公園整備

三島 市民らの運動実る



完成した湧水公園「緑と水の杜」 三島市南本町

「三島梅花藻の里」(三島市南本町)に流入する湧水の水源を中心に整備した公園「緑と水の杜」が完成し、22日に完工式があった。宅地開発によって消滅しかけた水源を守ろうと、NPOグループワーク(GW)三島や市民らが署名と募金活動を展開した「泉トラスト運動」が実を結んだ。

「緑と水の杜」は約310平方メートルで、水源を生かしてひょうたん型の池(長さ約10メートル)を整備。周辺にはミシマザクラ7本など計約20本の木を植え、木製のベンチ12基も配置した。今後、池にはミシマバ

イカモを繁殖させる計画だ。この公園はミシマバイカモの繁殖地である「梅花藻の里」に隣接し、水源があった。2014年夏に明らかになった宅地開発計画では、水源が打撃をうけ、里自体が消滅する恐れも出てきた。そのため水源を守れと市民の署名が1万人以上、募金は約280万円集まった。これを受け、市は昨年3月、宅地開発予定の土地を購入した。

GWは元々ある「梅花藻の里」(約380平方メートル)と一体で整備する計画を立案。その計画は昨年10月、「緑の環境デザイン賞」(財団法人都市緑化機構など主催)で最高賞の国土交通大臣賞を受賞。GWは、その助成金800万円と市民からの募金を元に、今年1月から整備に取り組んできた。GWの渡辺豊博専務理事は「市民の熱い思いで水の命を守ることができた。源兵衛川や楽寿園など三島市内の緑地と水辺を結んで、観光客が市内を回遊する拠点になることを期待している」と話した。